

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 デリリアム・ショック	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.460	△RG 0.043	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：デリリアム・ショック

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：シビア・デリリアム

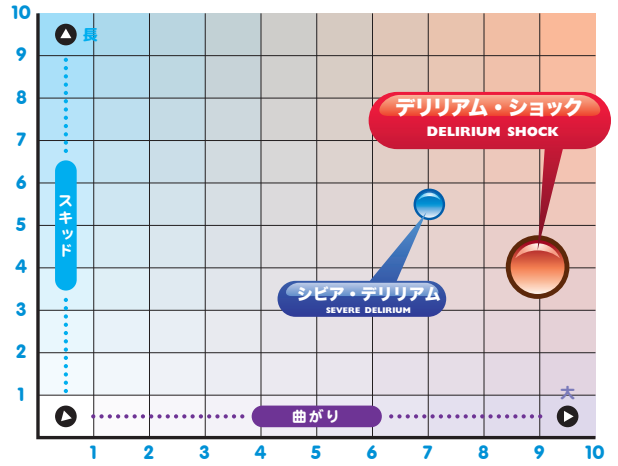
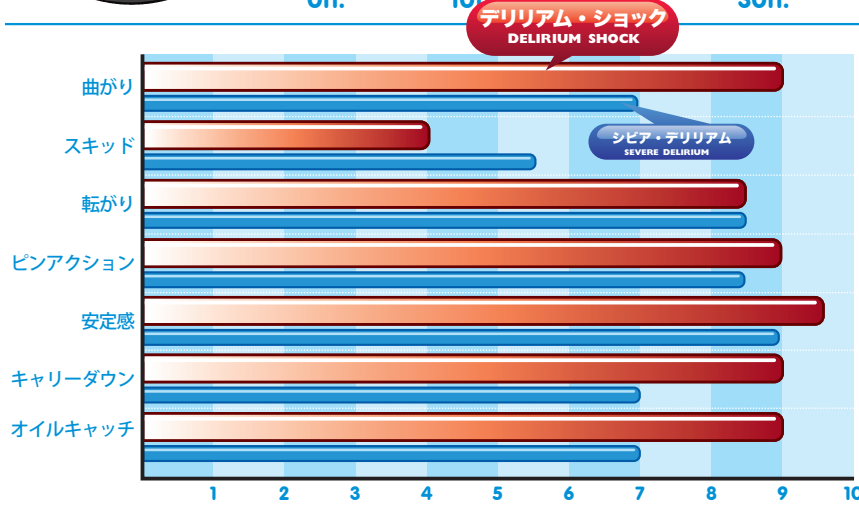
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

初めてこのボールをテストしたとき、本当にこれがYELLOW LINE(MP)のパフォーマンス領域なのか?と驚いたほど、Mid-laneのキャッチはほぼHP(RED LINE)級レベルのオイルを必要としました。ここ最近のコロンビア社のボールはキャッチするカバーが多くなってきたと思っていましたが、私にとってはこのDELIRIUM SHOCKがYELLOW LINE(MP)という領域も一切白紙にしてしまうほど、一番曲がり強く感じました。コロンビア社発表のリアクションのStrong Mid-lane and Backendはそのままですが、対応コンディションがmedium oilというのが正直驚きです。

私のイメージでは、とにかく手前から曲がる、曲がるうとするほど手前の摩擦を強く感じます。その強さのところからレーンアジャストすると、普段よりも手前のオイル量のある部分を使用しなければなりません。そしてMidで曲がり始めてからグイグイとポケットまで曲がる続けます。Severe DELIRIUMとの比較投球でもパフォーマンスの出方は明らかに差があり、奥の動きをやや強調させたSevere DELIRIUMなのか、Midの強さを前面に曲がりの大きさを強調させたDELIRIUM SHOCKという表現ができると思います。カバーストックをHybridからSolidに変えているとも言えますが、500/2000 アブラロン仕上げのSevere DELIRIUMから今回500/4000アブラロン仕上げにして最終仕上げの差を大きくすることで、Solidカバー特性を活かしのキャッチ力とバックエンドリアクションとのバランスを取っているということでしょう。ピンアクションも柔らかく仕上がっているし、価格帯とパフォーマンスという面ではお手頃に良いボールを入手できると思います。

特記事項

パフォーマンス領域を超えたキャッチと曲がりを実感できます。
曲がりの大きさとピンアクションの柔らかさ、読みやすい軌道は価格帯を凌駕するボールです。